【附録】:　関連する事項の説明

A.分析データの選定

A.1 平均風速による判断

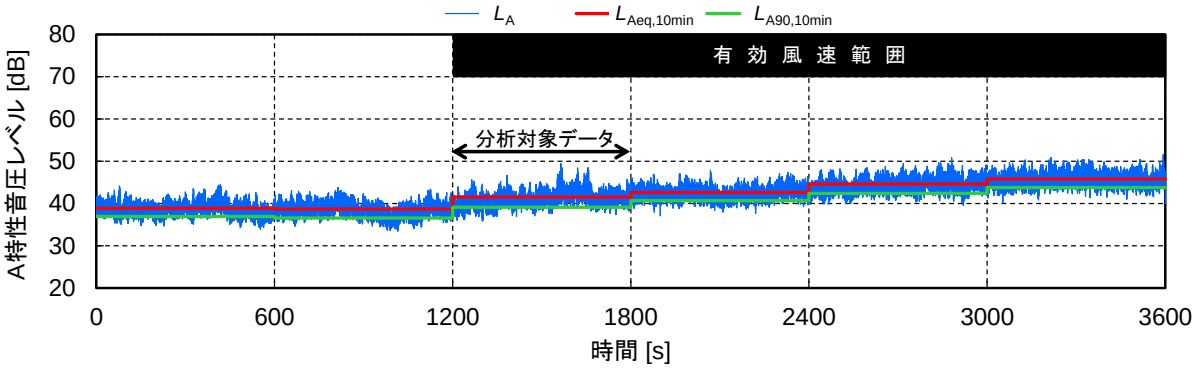
観測時間 1 時間，実測時間 10 分間とし，観測時間毎に分析対象とする実測時間を選定する。各観測時間について，ひとまず毎正時から 10 分間のデータに着目し，その時間の平均風速が有効風速範囲におさまっていれば，その時間の騒音データを分析対象データとする。有効風速範囲になければ，次の 10 分間のデータに着目し，平均風速が有効風速範囲に入っているかどうかで，分析対象とするかどうかを判断する。観測時間 1 時間のいずれの 10 分間も平均風速が有効風速範囲になければ，その観測時間の分析対象データは「無し」とする。夜間を対象とした分析対象データの選定方法のイメージを**表 A.1** に示す。

（注）　測定日の区分は連続測定を開始した観測時間を 1 日目の最初の観測時間とし，2 日目以降も同様に設定する。日付や基準時間帯の区切りで測定日を区分する必要はない。

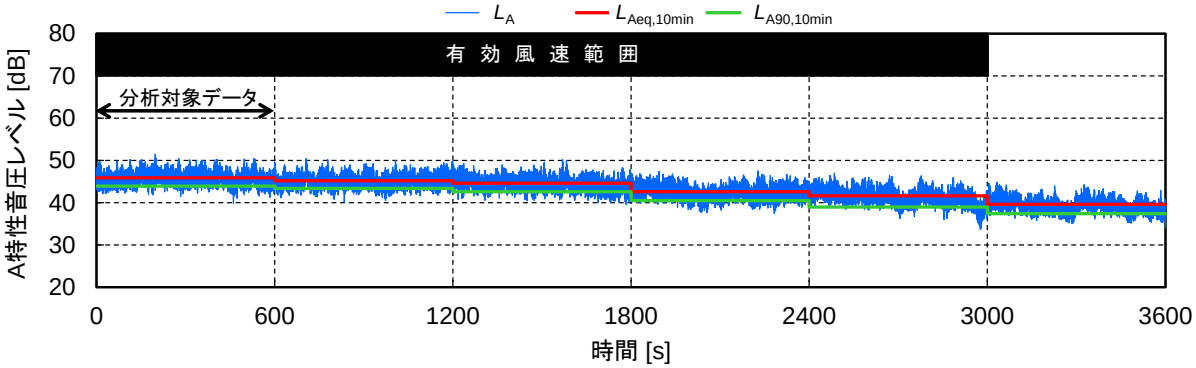
表 A.1 分析対象データの選定のイメージ（夜間を例として表示）

測定開始時刻		基準時間帯にわたり風速が有効風速範囲		基準時間帯の前半のみ有効風速範囲		基準時間帯の後半のみ有効風速範囲		基準時間帯の途中で風が吹いた場合		基準時間帯の途中で風が止んだ場合		基準時間帯で風速が複雑に変化した場合		基準時間帯で風の吹く時間が少なかった場合	
		風速	騒音	風速	騒音	風速	騒音	風速	騒音	風速	騒音	風速	騒音	風速	騒音
22：	00	有効	分析	有効	分析	無効	--	無効	--	有効	分析	有効	分析	無効	--
	10	有効	--	有効	--	無効	--	無効	--	有効	--	有効	--	無効	--
	20	有効	--	有効	--	無効	--	無効	--	有効	--	有効	--	無効	--
	30	有効	--	有効	--	無効	--	無効	--	有効	--	有効	--	無効	--
	40	有効	--	有効	--	無効	--	無効	--	有効	--	有効	--	無効	--
	50	有効	--	有効	--	無効	--	無効	--	有効	--	無効	--	無効	--
23：	00	有効	分析	有効	分析	無効	--	無効	--	有効	分析	無効	--	無効	--
	10	有効	--	有効	--	無効	--	無効	--	有効	--	有効	分析	有効	分析
	20	有効	--	有効	--	無効	--	無効	--	有効	--	有効	--	有効	--
	30	有効	--	有効	--	無効	--	無効	--	有効	--	有効	--	有効	--
	40	有効	--	有効	--	無効	--	無効	--	有効	--	有効	--	有効	--
	50	有効	--	有効	--	無効	--	無効	--	有効	--	無効	--	無効	--
0：	00	有効	分析	有効	分析	無効	--	無効	--	有効	分析	無効	--	無効	--
	10	有効	--	有効	--	無効	--	無効	--	有効	--	無効	--	無効	--
	20	有効	--	有効	--	無効	--	有効	分析	無効	--	有効	分析	無効	--
	30	有効	--	有効	--	無効	--	有効	--	無効	--	有効	--	無効	--
	40	有効	--	有効	--	無効	--	有効	--	無効	--	有効	--	無効	--
	50	有効	--	有効	--	無効	--	有効	--	無効	--	無効	--	無効	--
1：	00	有効	分析	有効	分析	無効	--	有効	分析	無効	--	無効	--	無効	--
	10	有効	--	有効	--	無効	--	有効	--	無効	--	無効	--	無効	--
	20	有効	--	有効	--	無効	--	有効	--	無効	--	無効	--	無効	--
	30	有効	--	有効	--	有効	分析	有効	--	無効	--	無効	--	無効	--
	40	有効	--	有効	--	有効	--	有効	--	無効	--	無効	--	無効	--
	50	有効	--	有効	--	有効	--	有効	--	無効	--	無効	--	無効	--
2：	00	有効	分析	有効	分析	有効	分析	有効	分析	無効	--	無効	--	無効	--
	10	有効	--	有効	--	有効	--	有効	--	無効	--	無効	--	無効	--
	20	有効	--	有効	--	有効	--	有効	--	無効	--	有効	分析	有効	分析
	30	有効	--	無効	--	有効	--	有効	--	無効	--	有効	--	有効	--
	40	有効	--	無効	--	有効	--	有効	--	無効	--	有効	--	有効	--
	50	有効	--	無効	--	有効	--	有効	--	無効	--	無効	--	無効	--
3：	00	有効	分析	無効	--	有効	分析	有効	分析	無効	--	無効	--	無効	--
	10	有効	--	無効	--	有効	--	有効	--	有効	分析	有効	分析	無効	--
	20	有効	--	無効	--	有効	--	有効	--	有効	--	有効	--	無効	--
	30	有効	--	無効	--	有効	--	無効	--	有効	--	有効	--	無効	--
	40	有効	--	無効	--	有効	--	無効	--	有効	--	無効	--	無効	--
	50	有効	--	無効	--	有効	--	無効	--	有効	--	無効	--	無効	--
4：	00	有効	分析	無効	--	有効	分析	無効	--	有効	分析	無効	--	無効	--
	10	有効	--	無効	--	有効	--	無効	--	有効	--	有効	分析	有効	分析
	20	有効	--	無効	--	有効	--	無効	--	有効	--	有効	--	有効	--
	30	有効	--	無効	--	有効	--	無効	--	有効	--	有効	--	有効	--
	40	有効	--	無効	--	有効	--	無効	--	有効	--	有効	--	有効	--
	50	有効	--	無効	--	有効	--	無効	--	有効	--	無効	--	有効	--
5：	00	有効	分析	無効	--	有効	分析	無効	--	有効	分析	無効	--	有効	--
	10	有効	--	無効	--	有効	--	無効	--	有効	--	無効	--	有効	--
	20	有効	--	無効	--	有効	--	無効	--	有効	--	無効	--	有効	--
	30	有効	--	無効	--	有効	--	無効	--	有効	--	有効	分析	有効	分析
	40	有効	--	無効	--	有効	--	無効	--	有効	--	有効	--	有効	--
	50	有効	--	無効	--	有効	--	無効	--	有効	--	有効	--	有効	--
注記		有効風速範囲 ： 10分間平均風速がカットイン風速以上で定格風速未満の範囲													
		無効 ： 10分間平均風速が有効風速範囲にない場合													
		分析するデータ数が，基準時間帯の実測時間帯数（夜間8，昼間16）の半数（夜間4，昼間8）未満の場合は，再測定とする。													

図 A.1(a)は，風車がほとんど稼働していない状態から，徐々に稼働しだしたときの周辺居住地域における騒音のレベル変化であり，(b)は稼働した状態から徐々に風が弱くなったときのレベル変化である。(a)では 10 分間平均風速がはじめて有効風速範囲になるのは 1200～1800 s（20～30 分）で，その時間の騒音データが分析対象となる。(b)でははじめから有効風速範囲にあるので 0～600 s（0～10 分）が分析対象である。



(a). 風車が停止から徐々に稼働したとき



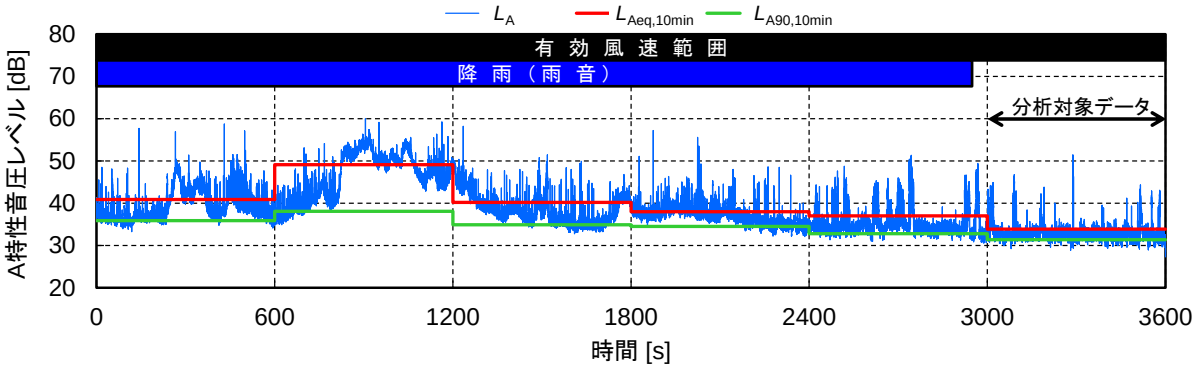
(b). 風車が稼働から徐々に停止したとき

図 A.1 平均風速による分析対象データの選定の例

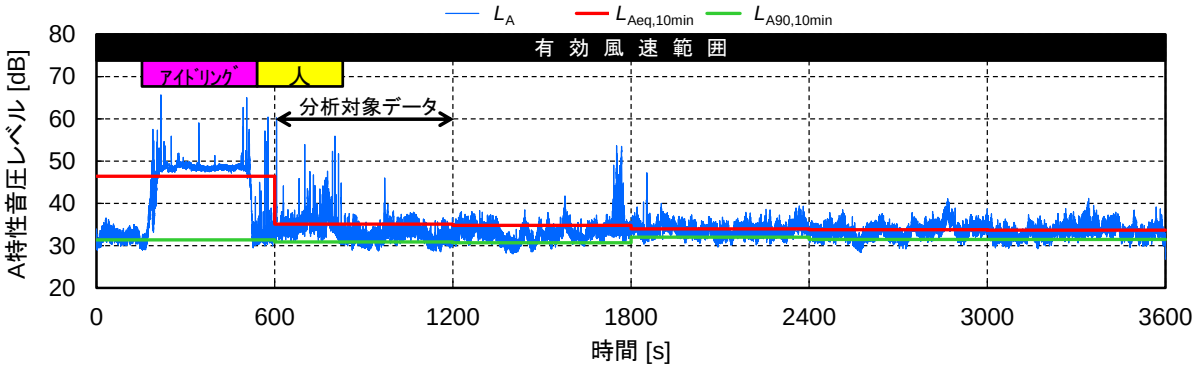
A.2 暗騒音の影響を受けたときの判断

平均風速が有効風速範囲にあっても，測定対象外の騒音の影響が長時間続く場合がある。実測時間の L_{Aeq} を算出するためには，除外音処理した時間が実測時間の半分未満である必要がある。実測時間の半分以上に対象外騒音の影響がある場合には，その 10 分間は対象とせずに，次の 10 分間を実測時間とする。

図 A.2(a)は降雨による騒音の影響が約 50 分間続いた例である。この例では降雨の影響が無くなった 3000～3600 s の 10 分間を分析対象データとし，この時間について除外音処理を行って評価量を算出する。**図 A.2(b)**は車のアイドリングや人声が約 10 分間続いた例である。この場合は，0～600 s の 10 分間については半分以上の時間でアイドリングの影響を受けているため，分析対象とはしない。600～1200 s の 10 分間については，人声の影響は実測時間の半分未満であり，除外音処理しても有効な騒音データは実測時間の半分以上は確保できるため，この時間を分析対象とする。



(a). 降雨の影響を受けている例



(b). 車のアイドリングの影響を受けている例

図 A.2　暗騒音の影響による分析対象データの選定の例